

平成24年度 森プロ事業実績：東濃ひのきの里・美濃白川

(平成25年3月末現在)

	H20～23年度		H24年度				5カ年	
	計画	実績	計画	実績	達成率	備考	計画	
集約化(ha)	187	271	53	242	456%	-	240	
作業道(m)	15,000	9,925	6,500	4,303	66%	森林管理路	21,500	
間伐等	面積(ha)	120	149	67	41	61%	利用+切捨	187
	材積(m3)	7,100	4,248	3,600	1,229	34%	支障木含む	10,700
備考	団地外(自力含み)実績【間伐 472.68ha、搬出材積 1,845m3、作業路開設 2,788m】 平成22年度当初から施業集約化実施計画により、白川町12箇所計1,199haの集約化施業に積極的に取り組んでおり、団地内では間伐等の計画数量を達成することが困難となった。							

H24年度利用間伐等における所有者への還元額(補助金-経費)

5,851 円/m3

施業集約化の状況

- 平成25年度の施業予定地の所有者と長期施業受託契約を締結した。(10年間)
- 施業集約化計画から森林経営計画へ変更及び策定へ向けた地元説明会を開催した。

森林施業プランの活用状況

- 個別の箇所で施業プランナーが現地説明を行った。
- 市場関係者と現地調査を行い助言をもらうなど、森林施業プランの精度を上げる努力をしている。



図-1 森林経営計画 地元説明会(上佐見)

森林施業プランナーの養成状況

- 平成24年度 森林施業プランナー 認定試験合格 1名
- 平成24年度 森林施業プランナー 技術維持研修 1名

森林施業プランナー活動実績発表

- 平成24年度 森林施業プランナー 実践力向上対策事業研修【森づくり・道づくりコース】(群馬県)
- 平成24年度 福井県林業士会 技術研修【健全で豊かな森林づくりプロジェクト】(講師)
- 平成24年度 岐阜県立加茂農林高等学校 林業体験視察【間伐モデル展示林】(講師)



図-2 実践力向上対策事業研修(群馬県)



図-3 福井県林業士会から技術研修(講師)



図-4 加茂農林高等学校林業体験学習(講師)

作業道の状況

- 平成25年3月末現在 作業路開設 約23.65m/人・日
- 日吉町森林組合の湯浅参事と小林課長に来ていただき、実際の現地で線形及び技術指導を受けた。



図-5 作業道線形及び技術指導



図-6 完成した基幹作業道



図-7 完成した森林管理路

作業システムの状況

- 平成25年度3月末現在 素材生産性 約4.27m³/人・日
- ① 伐採・造材・枝払い(チェンソー) → 集材(グラップル) → 積込・運搬(フォワーダ) → 運搬(トラック)
- ② 伐採(チェンソー) → 造材・枝払い(ハーベスタ) → 集材(グラップル) → 積込・運搬(フォワーダ) → 運搬(トラック)
- ③ 伐採(チェンソー) → 集材(スイングヤーダ) → 造材・枝払い(プロセッサ) → 運搬(トラック)
- ④ 伐採(チェンソー) → 集材(集材機) → 造材・枝払い(プロセッサ) → 運搬(トラック)



図-8 MST-600VDLの積込作業



図-9 新規導入したハーベスタ(SH135)



図-10 AK-33での積込・運搬

その他

- 2年目となる『東濃ひのきの家・木造仮設住宅研究開発事業 木づなプロジェクト』に取り組んだ。
- 県内外は元より、海外からの視察等にも対応し、町内木材関係団体事業についての普及啓発に努めた。



図-11 愛知県建築士会からの視察



図-12 広島県神石高原町からの視察



図-13 韓国全南大學、山林科学院からの視察

- 作業班、請負業者を対象とした安全講習等を開催して、労働災害事故防止に努めた。
- 組合の建物内にミーティングルームを設置し、毎日の現場技術者とのミーティングに活用した。



図-14 施主を対象とした森林体験



図-15 森林技術者を対象とした安全大会



図-16 毎日行っているミーティング

森プロの成果

- 現場技術者がボトルネック部分を認識することで、自身のスキルアップにつながり生産性が上がった。
- 施業プランナーと現場技術者がミーティングの必要性を再認識して、高効率低コスト作業を共に目指した。
- 県内外からの研修視察、見学会、講演等を受けることによって、組合全体の人材育成に繋がった。

今後の課題

- 森林経営計画を樹立したものの、国・県の作業道開設補助金の配分が皆無に等しいため、今後の事業実施に支障を来すことが予測され、所有者への還元金、組合の経営、技術者の生活に直接影響があるため、計画変更や計画自体の立直しが急務となってプランナーの肩に申し掛かっている状況である。
- プランナーの複数化による業務分担、作業班体制及び高性能林業機械の配置と調整を円滑にする。